



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

広島県 福山市立広瀬学園中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、  
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、  
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



**1コマ目**

**運動の時間 / 50分**

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

**2コマ目**

**座学の時間 / 50分**

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基  
づく「オリンピックの価値」等を  
伝える



個人またはグループワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。



■ **オリンピック** : 鹿島 瞳 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■ **期 日** : 2022年6月7日(火)

■ **ク ラ ス** : 全学年合同/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- ・自己紹介の後、オリンピックバリューの3つの価値を紹介し、エクセレンス：「卓越」「全力で取り組む」、フレンドシップ：「友情」「協力する」、リスペクト：「敬意/尊重」「相手を思いやる」を意識しながら取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。
- ・皆で声を掛けながら8種類の準備体操を実施後、2人組になり、体を大きく使って行う「全力あっち向いてホイ」を実施。

○主運動 等



- ・主運動は「陸上版メドレーリレー」を実施(全2回)。腕は水泳/競泳のメドレーリレーと同じ動きをし、足はスキップや両足ジャンプ等の動きをする。作戦タイムでは、次の走者がスタートしやすい方法や、アンカーがゴールした後にどのように行動すべきかを皆で考え、オリンピックバリューの「全力で取り組む」「ルールを守る」「協力する」等を意識するように伝える。



- ・運動の時間を振り返り、オリンピックバリューを意識できたかを生徒へ尋ねながら、3つの価値を意識しながら取り組んでいたことで良い結果が出ていたと称えた。オリンピックバリューの3つの価値は日常生活やスポーツの中であり、身近なものであること、座学の時間では、自身の経験も踏まえ、オリンピックバリューについて掘り下げて話していきたいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック** : 鹿島 瞳 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■ **期 日** : 2022年6月7日(火)

■ **ク ラ ス** : 全学年合同/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- ・競技生活において、またオリンピックを目指す過程で感じたオリンピックバリューを伝え、運動の時間に意識してもらったオリンピックバリューについて、さらに理解を深めてほしいと、授業の目的を確認。
- ・練習を共にした仲間やライバル、家族、コーチの存在、友人の何気ない一言等、「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」が無ければオリンピック出場という目標は達成できなかった。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



- 発問：学校をより良くするためにはどうしたらよいか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：エクセレンス：「とにかく諦めない」「全力で意見を言い合い、全力で発表する」「皆で全力を尽くす」等  
 フレンドシップ：「一人ひとりが意見を出し合って話し合い一つにまとめ高め合う」「友情を大切に皆で協力する」「励まし合う」等  
 リスペクト：「人の意見を尊重する」「恥ずかしながら感謝の言葉を言い合う」「レクリエーション等でルールを守る」等



- ・座学の時間を振り返り、オリンピックは自分の力だけでは出場することはできず、沢山の方の支えがあり出場することができた。学校を良くするためにも、1人の力だけではなく、皆で協力することが大切である。自分の目標や夢を叶えるために自分自身が頑張ることも大切だが、周りの人を頼り、協力してもらったことや仲間の夢を支えることも大切であると伝え、授業終了。



■ 集合写真



■ 記念品贈呈



■ 修了証贈呈

